

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 畜産課長 田邊 裕彦 電話番号 0852-22-5132

事務事業の名称	家畜疾病危機管理対策事業		
目的	(1) 対象	畜産に係る生産者等	
	(2) 意図	家畜伝染病が発生した場合には、即時に防疫態勢を整え、緊急に清浄性確認とまん延防止対策を図る必要があるため、こうした不測の事態に備えて常に危機管理対応を可能とする対策費を予算措置する。また、発生時に県が主体となり、緊急の防疫措置を実施することを明確にすることにより、生産者からの早期通報を促す。	
事業概要	家畜伝染病が発生した場合には、発生農場の飼養規模に関わらず即時に防疫体制を整備しまん延をはかる必要があるため、こうした不測の事態に備え、いつでも防疫措置を開始できる体制を維持する。		

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	重要な家畜伝染病の発生率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00	0.00	0.00	
式・定義	重要な家畜伝染病の発生件数/県内畜産農家戸数	実績値	0.00	0.00	0.00	0.00			%
		達成率		100.00	100.00				%
指標名	重要な家畜伝染病の発生率	重要な家畜伝染病の発生件数/県内畜産農家戸数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義	重要な家畜伝染病の発生率	重要な家畜伝染病の発生件数/県内畜産農家戸数	実績値	0.00	0.00	0.00			%
			達成率		0.00	0.00			%

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	7,669	196,800
うち一般財源(千円)	6,693	124,800

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

中国、韓国、台湾など近隣諸国では口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザがまん延している状況である。国内では口蹄疫は平成22年に宮崎県で発生し、甚大な経済被害をもたらしただけでなく、平成26年度においても5県7養鶏農場で高病原性鳥インフルエンザが発生し、同じく大きな経済的な被害が発生している。これら家畜伝染病発生国からの物資や人の交流が年々活発になっており、家畜伝染病の発生リスクが高まっている。

また一部の農場では飼養規模が拡大傾向にあり、ヨーネ病のような感染力が強くなく、同居畜の殺処分を伴わないような家畜伝染病であっても、ひとたび発生した場合には家畜伝染病予防法に基づいた迅速なまん延防止のための清浄性確認検査を行う際に多額の検査経費が発生する。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

大型農場で突発的に感染力の強い家畜伝染病（ヨーネ病）が発生時に、本事業を活用して迅速な清浄性確認検査を実施することができた。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

セーフティネットとしての本事業の性格上、困っている状況にはない。

### ②困っている状況が発生している「原因」

—

### ③原因を解消するための「課題」

—

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

重要な家畜伝染病発生時に備え、滞りなく防疫措置を行うため本事業を継続する必要がある。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）